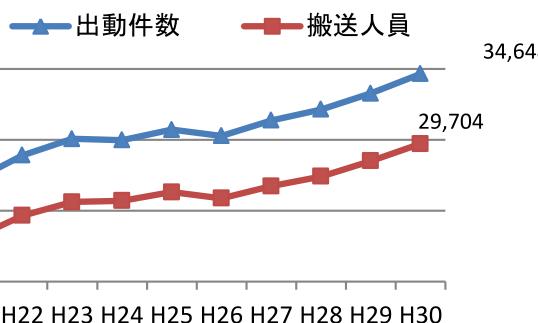
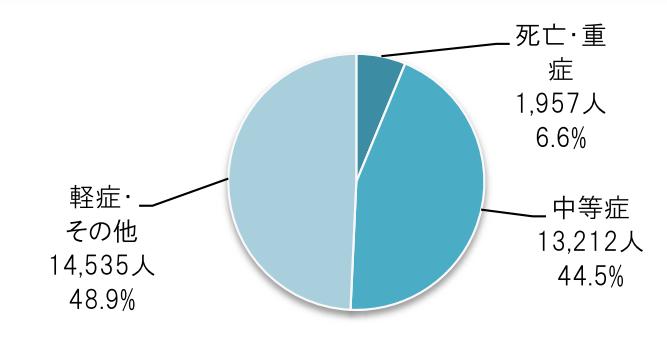


救急車は本当に必要な人のために ～救急車の適正利用にご協力を～



救急車の出動件数と搬送人員



搬送者の傷病程度(H30)

救急車の出動件数は増加傾向にあり、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。

救急車で搬送された方の半数が入院を必要としない軽症の方でした。

「風邪をひいた…歯が痛い…突き指をした…」など症状の軽い場合には、救急車を呼ぶ必要があるかどうかをもう一度考えましょう。

救急隊からのお願い～大切な命を救うために…救急車の適正な利用をお願いいたします～



その1 緊急性がなく自分で病院に行ける場合や定期的な通院などでは救急車を呼ぶことは控え、
公共の交通機関などを利用しましょう。

その2 急な病気やけがをしたとき、救急車を呼んだ方がいいのか、自分で病院を受診すればいいのか、
どこの病院に行けばいいのか…迷ったときは「ふなばし健康ダイヤル24」をご利用ください。

このような症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！

- 1 意識がない。
- 2 呼吸が苦しい、顔が真っ青、呼吸をしていないようだ。
- 3 急にろれつが回らなくなった、手足の動きが悪くなった。
- 4 突然の激しい頭痛、胸痛、腹痛。
- 5 高所からの転落事故。
- 6 けいれんが続いている。
- 7 車にはね飛ばされた。
- 8 大出血をしている。



… みなさんにご理解いただきたいこと …

救急隊は救急現場に近く、症状に応じた治療が速やかにできる医療機関を選定し、搬送していますが、受け入れ先の医療機関の状況によって搬送できないことがあります。その際、傷病者の理解を得て、市外の医療機関に搬送することがあります。